

## 澄川の森でオオタカとクマゲラを同時に見た

森の中を歩いていた。ジャー、ジャーとカケスがわめいた。ふと見上げた視線をよぎってオオタカが木立を縫って音もなく飛んだ。ケケケケケケケケとキツツキ独特の警戒の音が、さほど遠くない樹冠から聞こえてきた。クマゲラの声だと思った。オオタカの影は一瞬のことだったが、クマゲラの声は断続的に続いていた。確認したくて声に向かって静かに歩いた。ちらりと黒い影が動いた。立枯れのミズナラの樹幹の高い所に止まって幹を左まわりに螺旋状に移動するクマゲラを確認した。頭の赤が目立つ。雄のようだった。オオタカを警戒して興奮しているクマゲラは私を認めたらしく、遠ざかる方向の木立に消えた。オオタカにしるクマゲラにしる森林に棲む大型の鳥で、滅多なことではお目にかかれない。それを同時に見た極めて珍しい体験なのである。

場所は札幌市南区澄川の札幌都市環境緑地の北側に隣接するカラマツを主体とする混交林の中である。札幌市豊平清掃事務所のすぐ西側で、西岡の住宅地からもさほどの距離ではない。時間は2003年10月31日(金)12時30分頃と記録しておく。

森林ボランティアを始めて、この森を手入れ初めて2年目となった。他を含めて今年は年間70回程度森に入る。この春は残雪の有明の森でもクマゲラに出会った。今年2度目の出会いである。オオタカには羊ヶ丘の森林総合研究所の森でつい最近出会っている。札幌周辺の森は意外にも自然度が高いことの証明である。ヒグマも西野や盤溪あたりに出没する。ヒグマの行動範囲からして同一固体である可能性もあるが、別々の固体であるかも知れない。

この日も森の手入れでボランティア仲間20人ばかりで、澄川の森に入った。昼食休憩を早めに切り上げて、キノコでも探そうと歩いていた。クリとミズナラがほとんど茶色になった枯葉をつけているだけで、その他の樹木は落葉していて森の中の見通しがよい。お陰でオオタカとクマゲラが確認できたのである。

初雪が降ってもおかしくない時期だったが、このところ非常に暖かい。

仲間の一人が蚊に刺されたといったほどである。翌日はカバアナタケを採取した。意図して探した結果である。昨年も1個採取したので、この森で二度目の収穫である。先日は羊ヶ丘の森でも採取したので、昨年から3回目の体験である。その気になって探せばけっこう見つかるということである。冬の山歩きの目標が出来た。